

教点連ニュース 平成 25 年度 第 2 号 No. 23

平成 25 年 10 月 9 日

【平成 25 年度第 2 回（18 回）セミナーのご案内】

教科書点訳において欠かせない点図ソフト「エーデル」。どのように表現したら生徒にとって分かりやすい教材になるのか、この書き方で理解できるだろうかなど、不安や疑問を持ちながら日ごろ点訳されている方も多いでしょう。

これまで、エーデルユーザーからの声に耳を傾け、日々改良を重ねられてきた藤野先生におこしいただき、エーデルがどのような経緯で開発・進化してきたのかをご講演いただくほか、実際に活用しているボランティアの方々から利用事例をご報告していただきます。

日 時：平成 25 年度 11 月 23 日（土・祝）13：00～16：30（12 時半より受付）

会 場：玉水記念館

大阪市西区江戸堀 1 丁目 10-31

（連絡先：06-6441-0169）

テーマ：エーデル利用の最前線～あなたは、どのようにエーデルを利用していますか？

内 容：12：30 受付

13：00 開会あいさつ（当会理事長）

13：05～14：10 講演 「エーデルの誕生とこれから」

徳島県立城東高校講師・藤野稔寛氏

Edel（エーデル）ソフトの開発者

14：10～15：10 事例発表（ボランティア 3 名）

15：10～15：40 休憩

※休憩時間に、ジェイ・ティー・アール(株)のご協力により、点図を印刷できる新しい点字プリンター（ESA600G）のデモンストレーションを行いません。

15：40～16：20 質疑応答

16：20～16：30 閉会あいさつ

参加費：会員 500 円、非会員 1,000 円

定 員：100 名

お申し込み・問い合わせ

11月15日（金）までにメールかファックスで、下記までお申込みください。

その際、お名前、所属グループ、連絡先をご連絡ください。定員になりしだい締め切らせていただきます。

日本ライトハウス情報文化センター・奥野

e-mail: okuno@lighthouse.or.jp

FAX: 06-6441-0095 TEL: 06-6441-0015（代表）

【平成25年度第1回セミナー報告】

去る6月8日（土）に、日本点字図書館において、平成25年度第1回セミナーが開催されました。

「立体物から図への触察学習の可能性を探る～楽しく触れてみよう」をテーマに、独立行政法人特殊教育総合研究所・大内進先生と、千葉工業大学の手嶋吉法先生にご講演いただきました。

そして、実際に立体模型や触図に触れたり、当日展示されていた立体模型の中から底性有孔虫の触図を作成し、触図を作る際のポイントなどについて考えました。

ご協力いただいた先生方を初め、ご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

まず、大内先生から読み手の触察力や、触覚の特性についてお話いただきました。

図の読み取りを学習する際、立体物を触りながら図と合わせて形を確認することは重要です。手・指の感覚、ときには体全体を使って知覚し、能動的な触によって、形や大きさ、きめなどを認知していきます。しかし、触覚は事物全体を捉えることが難しく、一度に受け取れる情報の範囲が限られているので、手を動かしながら触ると精度が上がるという特性があります。さらに触覚は、視覚に比べると事物を捉える精度が低く、色を識別できないなど、細かな情報を把握する上で制限があるものの、事物そのものを捉えることができ、視覚の錯覚のようにごまかしたりすることができないという特性もあります。

次に、触覚による探索方法にはどのようなものがあるのか紹介されました。

1. 全体の情報から細部の情報を入手する。
2. パズルのように、部分を統合して全体を把握する。
3. 基準点や枠組みを活用する。例えば、何枚かの図に分割する場合、各図の共通箇所の部分を明らかにする。
4. 植物は根元から、動物は頭部から触っていくと把握しやすいといった、事物の特性に応じた探索方略がある。

このように、ある程度図から情報を読み取ることは可能ですが、触察から得られる情報には限りがあるので、図で表現しきれない情報を言葉の説明で補うことも必要です。

そして、分かりやすい触図を作るためのポイントが紹介されました。

- ・引き出し線は、極力少なくすること。また、同じ図の中で用いられている他の線と触覚的に異なる線種にする。
- ・図中に入れる言葉がスペース的に入りきらない場合、言葉の一部を短縮した文字を記載する。番号付けなどはしない方が望ましい。
- ・色分けされているような図を、複雑な面パターンで示さない。
- ・順序立てて説明する場合は鳥瞰図を使用してもよいが、結果のみ表すのに鳥瞰図を用いない。

大内先生のお話の中でも、立体物を触察することの必要性についてふれられていましたが、それを受けて手嶋吉法先生から立体模型資料の製作の講演をしていただきました。

手嶋先生は、2006年に立体模型プロジェクトを立ち上げ、デジタル技術を駆使して視覚障害者が触って分かる物作りを広げたいということを目的に活動を始められました。立体模型は、CAD（3次元作成コンピュータプログラム）を用いて、製作する模型の大きさ、凹凸の度合いを数式にデータ化し、数学ソフトを使って積層造形法で製作します。そして、正確な形を作り出していきます。製作模型の種類は、手のひらサイズから著しくかけ離れているもの、例えば惑星や地形図、プランクトンのような微小生物や、抽象物である結晶、幾何学模型、絵画、多面体など多岐にわたります。

当初は視覚障害者のための教材を作ることを目的に始めた活動でしたが、数々の模型を作られるうちに、だれもが分かる共用模型になるのだと思うようになりました。

実際に参加者は、様々な立体模型に触れることができました。先生の製作された模型の中には、事物の全体模型だけでなく、あえて輪切りにした模型も作り、断面にも触れて、内側の部分もしっかり観察できるよう工夫されていました。

最後に、3グループにエーデルで作っていただいた底性有孔虫の触図を参考に、立体模型と照らし合わせながらどのような図がわかりやすいのか、意見交換を行いました。

日ごろの授業では、図で示される教材が多い中、立体模型を触ってみることの重要性を、改めて参加者が確認できたセミナーとなりました。

【平成 25 年度第 3 回理事会記録】

日 時：平成 25 年 8 月 7 日（水）13:00～16:30

場 所：日本点字図書館会議室

参加者：田中、池村、加藤、込山、鈴、長岡、野々村、福山、古谷、藤下、三上、奥野、松本

- 内 容： 1. 平成 25 年度第 2 回（第 19 回）セミナーの内容について
平成 25 年 11 月 23 日（土、祝）、大阪（玉水記念館）
テーマ 「エーデルの活用、これまで、そしてこれから」
2. 「教科書点訳のてびき」の進捗状況について
- ・総論、各論の原稿がそろったので、編集作業に入っている。
 - ・図の掲載について、どの部分を取り上げるのか、原本を見て選定をする。著作権処理（申し出）をし、写真撮影する。
 - ・コンマなど記号類の使い方を統一させるために、「著作本編集マニュアル」の表記を変更させる旨の断り書きを記載しておく。
 - ・参考資料として、著作本の点字教科書、点字地図帳などを参照できることを紹介する。
3. 教科書製作途中でキャンセルがあった場合の対応について
- 製作途中で、生徒の進路変更等によりやむを得ずキャンセルされる場合もある。教育委員会と見積書を交わす段階で、受注を受けた施設・団体から、キャンセルが生じた場合に製作状況に応じて費用負担が発生することを告知しておくといふ。

* 次回は、11 月 23 日に理事会を行います。

発行日：平成 25 年 10 月 9 日
発行所：NPO 法人全国視覚障害児童・生徒用教科書点訳連絡会
ホームページ：<http://kyotenren.web.fc2.com/>
発行人：田中徹二
連絡先：（社福）日本点字図書館 担当：田中・松本
〒169-8586 新宿区高田馬場 1-23-4
Tel：(03)3209-0241 Fax：(03)3204-5641
E-mail：matsumotom@nittento.or.jp
振込口座番号：0180-7-262151